

COG2025 応募内容確認書

ID	13-9-1
自治体名	東京都多摩市
自治体提示地域課題	誰もがつながり合えるミライのコミュニティ施設の建設アイデア
チーム名	大妻多摩豊ヶ丘プロジェクトチーム
アイデア名	#タマろ ~多世代で創る自然×健康の新しいカタリバ~
チーム属性	学生：学生（ ）だけで構成されたチーム
チームメンバー数	9
代表者	武 夕花
メンバー（公開）	武 夕花, 金海 和奏, 馬場 万菜実, 安藤 ゆりあ, 渡辺 優里, 草場 美穂, 本橋 凜, 小嶋 輝歩

【確認事項】

- <応募のPDFファイル名と送付先>確認しました。
- <応募内容の公開>確認しました。
- <知的所有権・肖像権>確認しました。問題ありません。

チーム名 大妻多摩豊ヶ丘再生プロジェクトチーム

アイデア名 #タマろ ~多世代で創る自然×健康の新しいカタリバ~

自治体名 東京都多摩市

地域課題 誰もがつながり合えるミライのコミュニティ施設の建設アイデア

1. アイデアの全体像

〈解決したい課題のポイント〉

- ・地域の少子高齢化
- ・施設の老朽化

〈提案するアイデアの内容〉

多世代で創る自然×健康の新しいカタリバ

(1)アイデアの概要

多世代交流を通して地域の活性化を目指す、新しい公共複合施設の設計・運営提案を行う。

(2)アイデアの詳細

1-1.複合施設の建物設計構想図

6ページ参照。各スペースの説明を以下に行う。

[A.乳幼児スペース]

0~6歳対象。児童用図書、知育玩具等を常設する。壁にホワイトボードを設置する。

[B.飲食スペース]

外部提携工房で製造された菓子類や食材の再加熱提供、及び飲料の提供を行う。常設の厨房設備は設けず、円卓および自動販売機を配したイートイン・休憩スペースとして運営する。

[C.勉強スペース]

仕事、勉強問わず利用できる。仕切りのあるスペース、仕切りのないスペースを設ける。

[D.イベントスペース]

お誕生日会やステージ公演といった催しを定期的に開催する。

1-2.施設内でのイベントカレンダーの提示

イベントカレンダーを掲示板、HPに掲示することで、施設を知っていても寄りづらい人に来館のきっかけを与え、特定の曜日や都合に合わせ訪れやすくする狙いがある。さらに、人の交流が生まれやすいイベントを企画することで、地域交流を深める効果が期待できる。

カレンダーの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	体操	ガーデニング	太極拳	ピクニック	ウォーキング会	フリマ	体操
午後	カードゲーム	マラソン	お料理教室	ステージ公演	星鑑賞	百人会議	誕生日会

春	夏	秋	冬
・今年度の抱負宣言 ・お花見会 ・レシピ伝授会	・流しそうめん ⇒芝生に広々と ・スイカ割り ・水鉄砲大会	・ビブリオバトル ・紅葉鑑賞 ・十五夜 ・ハロウィン	・桜の木植え (工事中～) ・イルミネーション

1-3.「また来たい」と思える仕組み

①「ライクラック」の設置

自分の好きなものを棚に置いて「ライク」を共有する「ライクラック」を設置する。市より安価又は無償で棚を提供し、棚の経営者が関連本1冊以上と自分の好きなモノの展示を行う。また、展示される私物の本や関連する図書館の蔵書は他の利用者に貸し出し可能とする。展示の感想を書いた付箋を掲示板に貼り、経営者と他の施設利用者間の意見や感想を共有する空間を創造する。ライクラックの入れ替えは二ヶ月を予定しており、入れ替わり後一ヶ月目には借用者本人が「ライク」について語る「語りたい会」をイベントスペースにて行う。

②市民による畑作業・木植え等の実施

屋上での野菜栽培や敷地内での季節に合わせた木植えの催しを行うことで地域住民同士の連携を図る。また、ガーデニング部を募り、当番制で市から提供された種からの栽培をする。栽培された野菜はNPO法人団体等の外部に調理委託をし、弁当として施設を介して市民に還元していく。

③#(ハッシュタグ)の活用

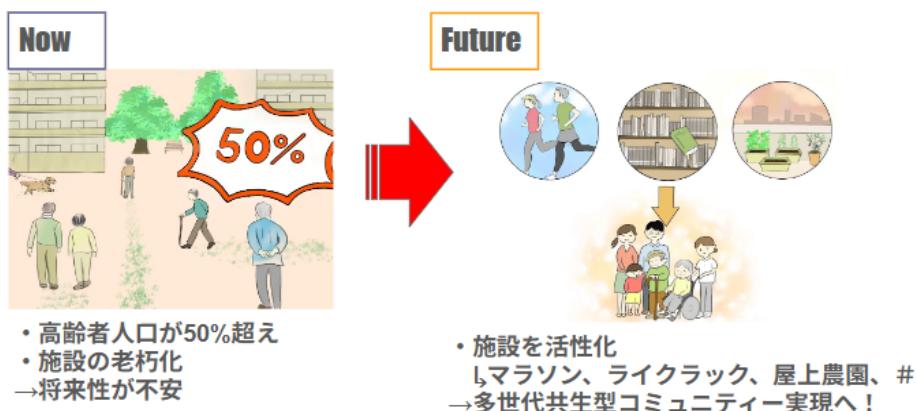
飲食スペースおよびイベントスペースでは、対話のきっかけを生む恒常的な仕組みとして#の活用を検討している。ここでの#とは当人の属性や趣味を指したもの表示を指す。#を用いることで、普段は話しかけない人とのコミュニケーション創出を目的とする。具体的には、「#ゲーム」「#釣り」といった#を書いた紙を胸元につける形式とする。また、月1回施設に来た全員が#を身につけるイベントを開催し、それ以外の施設営業時は「話しかけてほしい人は#を着用し、個人作業に集中したい人は着用しない」という使い分けにする。また通常営業時には週ごとにお題を変更する。(お題の例:「行ってみたい国」)

1-4.外からも「来たい」と思われるような人々を惹き込む仕組み

3イング(ウォーキング・ランニング・サイクリング)コースの整備

これらは年代を超えて取り組みやすく、豊ヶ丘の豊かな自然を活かすことができる。コースを整備することで、地域への経済効果、知名度向上、健康の保持増進、交流拠点としての発展を図る。

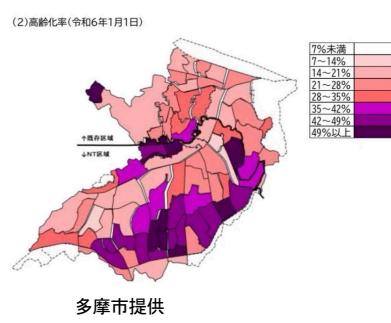
①複合施設がコースの中間地点として活用される。施設ではその日の走行距離ランキングを確認できたり、ヘルスチェックができたりするスペースを設置する。また、「朝活」や「夜活」等の催しを実施することで、運動が不慣れな人でも「出発地点から施設まで走る！」と実践しやすくなる。
②コースに案内板またはQRを設置し「歩くミュージアム」として多摩市の魅力や歴史を発信するとともにQRで経路やお手洗い、給水地点が確認できるようにする。これらの設置により豊ヶ丘の歴史的価値を広く伝えるという教育としての効果も期待でき、さらに住民が地域の魅力を再認識し、外部の人々にとっても地域の魅力を知れる場となれると考えた。



2. アイデアの理由

この施設のある多摩市豊ヶ丘は、団地の建ち並ぶ多摩ニュータウンの一角にあり、小田急線、京王線、多摩都市モノレールの交わる多摩センター駅から徒歩25分・バスで10分ほどの位置にある地域である。豊ヶ丘では高齢化率が極めて高く、若年層の減少も大きな問題になっている。一部地域では高齢化率が50%を超え、また年少人口は3%以下になっているため、地域を支える担い手が減少している。この現状を踏まえ地域を活性化するためには高齢者のQOLを向上させ活動的な高齢者の増加を促進することや、豊ヶ丘に魅力を感じる若年層を呼び込むことが必要だと考えた。

丁目	高齢化率
豊ヶ丘1丁目	20.74
豊ヶ丘2丁目	38.45
豊ヶ丘3丁目	49.11
豊ヶ丘4丁目	51.81
豊ヶ丘5丁目	50.21
豊ヶ丘6丁目	45.38



「協創」に注目

多摩市の掲げている「協創」とは自分の強みを磨き上げた者同士が、新しい価値を創造するという共通の目的を目指す連携のことを指す。私たちは地域の活性化を通して「協創」を実現できるような空間を提供できるどのような施設はどのようなものであるかを模索していた。

3イングコース

→街頭での聞き取り調査を行なった際に、高齢者層の意見の中に運動できる機会が欲しいというニーズが見られた。新潟県見附市では地域の高齢化・人口減少による様々な課題を克服するために快適な歩行空間の整備の実施をはかり、商店街と協業(地域の活性化)して外出機会を増やす取り組みを実施している。平成28年3月末時点で1445人の地域住民が参加し、その結果体力年齢の若返り効果を実証した。参加者の体力年齢の若返り効果を実施したところ、体力年齢が30か月で約15歳若返っていた。

また、The Relationships between Physical Activity and Life Satisfaction and Happiness among Young, Middle-Aged, and Older Adultsより、若年層、中年層、高齢者層において、一定以上の運動が生活満足度や幸福度に寄与することが知られている。よって、マラソン等の運動により高齢者を含めた全ての年代でQOLの向上とそれに伴う地域の活性化が見込まれる。

屋上農園

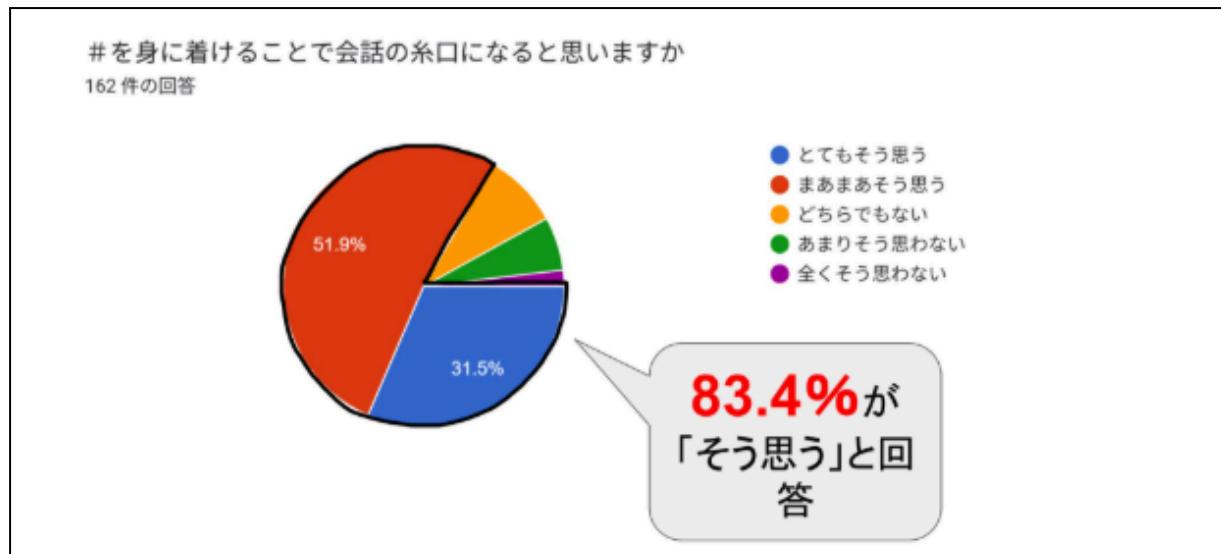
→今回の多摩市のテーマである協創というテーマを達成するために、継続的に人が通うような仕組みが必要であると考えた。豊ヶ丘複合施設の周辺には団地が多く家庭菜園に興味があるが、土地がなくできないという人でもここに通えば農業を体験できるようにすれば継続的な来訪が見込める。またここで育てた食材を使って、NPO団体と協力し、お弁当等を提供することで、給食がない長期休みの親の負担を減らせるとも考えた。実際に小金井市には「わくわく都民農園小金井」という地域活性化交流農園がある。そこでは地域の農家と連携して都民に農業体験を提供している。また、大人が500円でチケットを購入して食堂に預け、子どもがそれを利用して無料で食事を楽しめる食堂や交流イベントもある。

ライクラック(趣味棚)

→協創というテーマの新しい価値を創造する第一歩として、他人同士で自然に会話が生まれるように手助けをするための仕組みを考えた。シェア型本屋ブックマンションという物に着想を得て、本だけでなく自らが好きな物を置きそこから語らいの時間を作ることができるということが期待される。実際東京都の吉祥寺にあるシェア型本屋ブックマンションでは月額3850円で棚を持ち、好きな本を並べ販売をすることができ、本を通じたコミュニティが形成されている。

#(ハッシュタグ)

#は複合施設を利用する際に身に着け、新たなコミュニケーションのきっかけを促すものである。大妻多摩高等学校1年生、2年生を対象に12月の3日間でアンケートを実施し、162名から回答を得た。



「#が会話の糸口になると思うか」という質問に対して、83.4%が「そう思う」と回答した。また、「2025年にそこに滞在することを目的とした公共施設を利用したか」という質問に対して、46.3%が「ある」と回答し、53.7%が「ない」と回答し、加えて、「ある」と答えた人でも「月に数回」利用すると回答したのは82.9%であった。

このことから、たとえ公共施設を利用する回数が少ないとしても、#が新たな会話の糸口になると考える人が多いことが分かる。

これらの結果から#を導入するべきであると考えた。

3.実現までの流れ

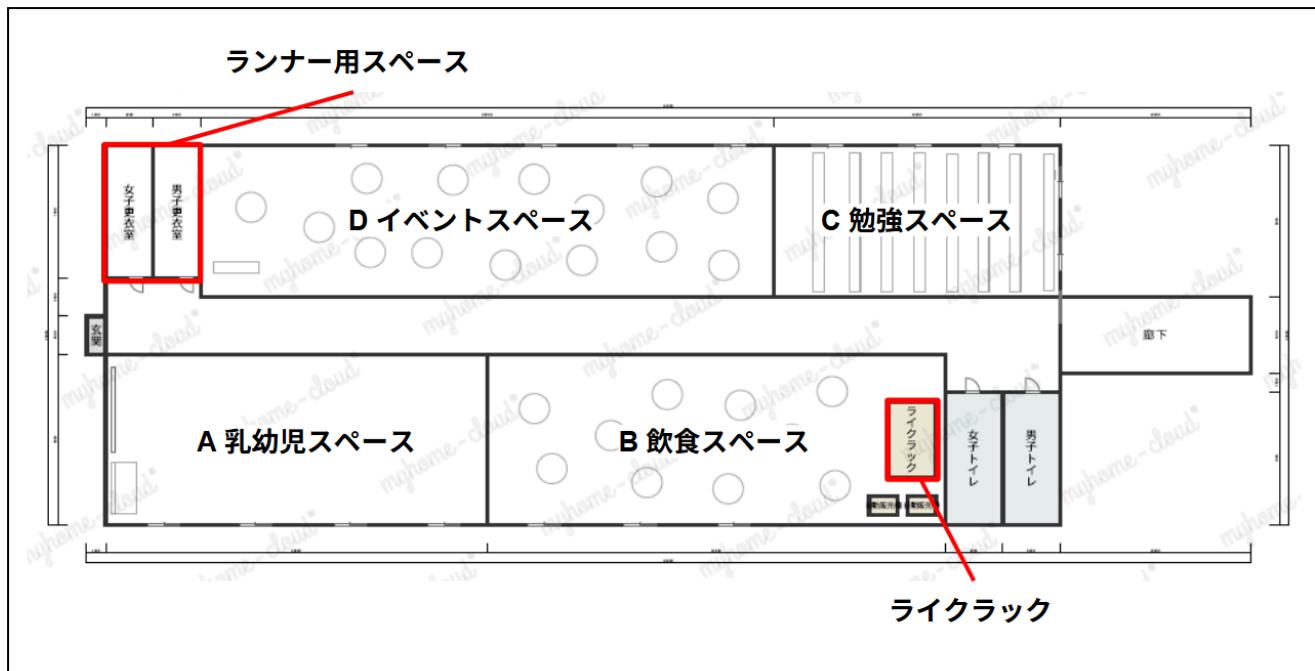
3-1. 実現する主体

公立民営による運営体制を基盤とし、2027年を目安にNPO法人又は社会福祉法人に市から直接打診し、2028年に運営を委託する。

3-2.必要な資源と調達方法

人材：職員および清掃員について、地域住民へのPRを中心とした公募を行う。また、保育・教諭系免許や介護系免許を有する方は、なお望ましいものとする。

物資：下記の独自に作成した間取り図参照。



[A.乳幼児スペース]

- ・プレイマット：児童スペースの確保と共に幼児の安全を保護する
- ・知育玩具：積み木、ブロック、ぬいぐるみ等
- ・本棚：児童用図書や漫画を一部所蔵する
- ・ホワイトボード、ペン：落書き等の遊びに使用する

[B.飲食スペース]

- ・円卓
- ・椅子
- ・自動販売機：それぞれ軽食や飲料を100円～300円程度で販売する

[C.勉強スペース]

- ・勉強机
- ・椅子

[D.イベントスペース]

- ・可動式ステージ
- ・円卓
- ・椅子

[ランナー用スペース]

- ・貴重品ロッカー
- ・更衣室

[ライクラブ]

- ・棚
- ・掲示板・感想等の記入

これらは、購入または地域住民からの寄付、前施設の物品をそのまま使用する。

資金：市役所は、施工費は8億円を想定している。自治体からの委託費2000万円を活用し、これは年1回受け取ることができる。

3-3. 実現までのプロセスと時間軸

令和7年～令和9年度 庁内打合せ・基本計画(府内案)、新施設 基本計画・設計。

令和8年度 多摩市が今後の運営主体をNPOまたは社会福祉法人から公募。

令和10年度 多摩市が運営主体を委託→現施設閉館、解体工事。

令和11年度 複合施設で働く人材を多摩市民に告知し、募集(運営団体)必要機材をそろえ、内装を整える→新施設建設工事。

令和12年度 開館パーティーと地域住民との植樹→新規開館。

(上記のスケジュールは多摩市協創推進室の企画書より)